

ディスカッション:「どうする情産協! ? ~静岡地域のDXに私たちができること~」

「セミナー等学習機会」

この2~3年は、オンラインが主流だった

人材育成部会セミナー企画 = 世代が変わると聞きたいニーズが異なる

若い世代が知りたい情報は何か?

若い世代の考えが見えない

セミナーの内容の問題 … 受講者層を若い人向けと分けたらどうか?

1Hの動画は長い! ⇒ 短い動画 ⇒ 動画は見ても内容は覚えていない

動画を復習して実践する場があると定着するかも

大学生もノートを手書きしている

手を動かさないと見た聞いたことは定着しないのかも

ノートパソコンでキーボード打てない学生がいる

「社会人向けのITパスポート講座」= 企業のレベルアップを図ることが目的

「ITパスポート」= IT企業以外の企業/組織向けに普及させる必要がある

「SE 講座」は神奈川情産協からヒントを得た

オンラインの物足りなさ ⇒ アイデアが広がらない/テーマをなぞって終了では物足りない

「対面の雑談」が実は重要 = 「一方的な情報発信」は意味がないのかも

講義: 1hに集約したら、集客がすぐに埋まった

セミナー案内 = 自分(上司)がセミナーの内容に興味がないと、行くメンバー(社員)

には開催通知(回覧)しない ⇒ 機会損失?

コロナ禍で一般化した On Line だが、そこに「物足りなさ」を感じる

オンライン会議の場合、始まる前や終わった後の「雑談」をする機会がない⇒これは翻っ

て見れば「リアル会合の利点」に通じる

今後は、もっとフェイストゥフェイスの場(機会)を増やすべき

セミナーや講習会の評価は、「人数ではなく、継続することにある」

参加者からの「面白いよ」が呼び水になる

「プレゼン/発信/コミュニティ/コミュニケーション」

情産協のホームページ: ほぼ見られていない。

発信するコンテンツ: “楽しそうな動画をつける”はやってこなかった

エンターテインメント性も要るだろうか

SNS の活用も広がっており、今では LINE もビジネスツールに採用されている
メールはもはや読まれることはなく、SNS もショートメッセージ化している
YouTube 等の動画も短時間にまとめなければ観てもらえない傾向にある
Face Book、ツイッター、インスタグラム、TikTok などコミュニケーション手段は広がる一方だが、世代間ギャップがあって統一できない悩みがある
インスタグラム ⇒ 人事採用のアカウント
企業同士が相互フォローしている？ ⇒ インフルエンサーを使うのはどうか
我々が発信する意味/意義はなにか？
Udemy 利用希望が増加⇒短時間＝見るだけでは頭に入らない⇒使って初めて覚える
ChatGPT = 質問が良ければ回答も良くなる
AI 車需要予測プログラム = 2 か月で制作 ⇒ 趣味だと楽しい = 終業時間内に
質問が来て返答する ⇒ 次の日の朝には(終業後の時間の使い方)プログラムが出来上がってくる？！

「静岡情報産業協会(SIIA)」

若い人たちが来るにはハードルが高い
参加するには上司3人くらいを超えさせないといけない ⇒ 稟議書/ワークフロー...
参加したことによる成果/結果を求めがち
「協会活動にもっと多くの会員企業から社員の皆さんを呼び込むには？」 ⇒ 「若い社員が気軽に出ることができる仕組みづくり」、「ハードル下げる」ことが必要ではないか
「今の時代、SIIA のような協会は必要とされるのだろうか？」 ⇒ 「協会の価値は、自社では呼べない講師を呼べる(講師も公の団体だと受諾しやすい)」など、私企業など個々では不可能な活動は多々あるのではないか
情産協だからこそ呼べる企業や人物が居る ⇒ 依頼を受ける側も、公の組織の方が、受託しやすいのでは？
リアルなコミュニケーションに特化しているのが情産協の良さではないか？
チャンネル開拓の場にはなる
テクノロジーの勉強であるならば、動画を見させればよいし、教材で勉強してくれ
業界ごと/業界どうしの交流があまりない
業界を超えた情報交流会が必要 = (例)製造業が困っていることセミナー
全国には「〇〇県情報サービス産業協会」といった団体が、ほぼ全都道府県に存在するが、そもそも「情報産業」というワードが古いのではないのか？
SIIA としては、もっと「使う側(ユーザー側)の活用法」を提案したらどうか？
「ここに来ないと情報が入らない」、はもう古い⇒それは SIIA も同じではないか？
「プラットフォーム化」で悩んでいる人が多く、その課題に応えるメニューの検討も必要
SIIA の在り方を変える必要

「SIIA 今後の課題」

協会はコミュニケーションに特化する必要がある

リモートとリアルをミックスすべき

コミュニティづくりや発信(プレゼン)の勉強も求められるので、「発信」に力点を置いた勉強会などはどうか？

業界間の交流も欠けている ⇒ 例えば「クラウド活用」や「AWS などの利点」に関する情報をテーマに、業界を超えた交流をしたらどうか？

商工会議所との連携はほぼできていない = 活動実績もあまりない

静岡市から補助金を受けているが、その意義や活用法をもっと考える必要がある ⇒ 「補助金」⇒「事業受託」

「その他の話題」

「静岡県デジタル化/イノベーション創出拠点「SHIP」等の活用

プラットフォーム = 「相談会ができる場所」⇒ ”悩んでいる人に直接答えてもらう”

ライトニングトーク ⇒ 業界別の相談会(雑談ベース)

肩肘張ったものより、「なんとなくグダグダ始める」ことが良いのではないか？

《参加者》

漆畑 晃司 理事・運営委員長 (株エル・ティー・エス)

小林 博典 人材開拓推進部会 副部長 (株エル・ティー・エス)

小豆川 裕子 人材育成教育研修部会 (常葉大学経営学部 教授)

齊藤 淳介 SIIA ICT会員 (株コサウエル)

桜井 俊秀 SIIA 一般会員/事務局長 (株富士フォーチュン)

高橋 義輝 人材育成教育研修部会 (城南電機工業株)

花澤 真平 人材育成教育研修部会 部長(株SBS 情報システム)

米良 直樹 人材育成教育研修部会 副部長(株浜名湖国際頭脳センター)

SIIA ディスカッション@「マウントフジ里山バケーション」

2023.03.13

【まとめ】

この文章は、「静岡情報産業協会(SIIA)」のオンラインセミナーや学習機会、プレゼン、発信、コミュニティ、コミュニケーションについてのディスカッション内容です。重要な点は以下のとおりです。

1. オンラインセミナーの受講者層に関して、若い世代のニーズを考慮する必要があります。
2. 短い動画は、内容が覚えられない可能性があるため、動画を復習して実践する場が必要です。
3. 手を動かすことで情報が定着する可能性があるため、ノートを手書きしている学生もいます。
4. 「社会人向けの IT パスポート講座」は、IT 企業以外の企業や組織向けにも普及させる必要があります。
5. 対面の雑談が重要であり、「一方的な情報発信」では十分ではありません。
6. セミナーの評価は、継続することにあるため、面白いコンテンツを提供することが重要です。
7. SIIA のホームページや発信コンテンツの改善が必要であり、SNS の活用も重要です。
8. 動画コンテンツは、短時間にまとめる必要があります。
9. インスタグラムを人事採用のアカウントとして活用することができます。
10. コミュニケーション手段が広がっているため、世代間ギャップがあって統一できない悩みがあります。

ChatGPT による編集

20230324